

ベトナムの若者のキャリア形成に関する研究 —高学歴留学生の困難は何か—

日本型教育グローバルコース

Le Thi Trang

1. はじめに

日本でベトナム人の留学生が近年急増している。2021 年ベトナム人留学生数は、全留学生の 20.4%を占めており、中国人の留学生数に次いで第 2 位となっている。その理由は、日本とベトナムという両国の社会的背景によるものである。日本では「留学生 30 万人計画」を公表して日本を世界により開かれた国とし、アジア、世界の間ヒト・モノ・カネ、情報の流れを拡大する「グローバル戦略」を展開する一環として、2020 年を目途に 30 万人の留学生受入れを目指している。そのため、留学生が日本に簡単に入れるために政策がより緩和される。

ベトナムでは産業革命 4.0 の時代にベトナムで知識経済を発展させることは、国家戦略になった。そのため、ベトナムはますます才能を必要としており、政府はベトナム人学生が留学するのを促進する政策を導入している。日本へ留学しやすくなるので、ベトナム人の留学生数は増える。

留学生は日本に留学するのに有利な条件を持っているが、留学生による犯罪が多い。理由は二つある。一つ目は学生の一部の目的は日本へ勉強に来ることではなく、お金を稼ぐことを目的に来日するからである。彼らは、留学生が週 28 時間しか働けないという規則に比べて、多く働く傾向がある。二つ目は学生が日本へ勉強に来るが、日本についての情報があまりなく、留学センターのブローカーの情報に頼っているからである。私は教育に注目し、ベトナムから来日した多くの若者の社会的不適応の原因は、ベトナムの学校でキャリア教育に注目されていないからだと考える。そのために、日本におけるベトナム留学生は、多くの困難に直面していると考えられる。この研究の目的は、以上の認識に基づき、日本におけるベトナムの若者の、キャリア形成上の困難を明らかにすることである。

本論文におけるキャリアを職業だけではなく、広く理解した方がよいと考えた。本論文では特に、学歴キャリア、職業キャリア、家族キャリア、ジェンダー関係のキャリア、恋人との関係、性の多様性 (LGBTQ) なども含め、人生全体の中での様々な事柄を「キャリア」と理解する吉田 (吉田、2014、2022) の捉え方に従って、キャリアを捉える。私は、日本に留学経験があるベトナムの若者にインタビューし、キャリア形成の観点から高学歴

留学生の困難を明らかにする。そのことを通して、問題解決への提案を行いたい。

2. 統計にみるベトナムの若者のキャリア形成

1章では学校、仕事や家族等に関する日本とベトナムにおけるベトナム若者の特徴と状況を指摘した。（そして、ベトナムの背景と社会変化に関する原因を指摘してベトナムにおけるベトナムの若者の困難を明らかにする。）

ベトナムの政府は2030年までに、知識経済中心の戦略（Knowledge based Economy）を備えた、工業化され近代化された国になることを目標としている。これを行うために、政府が立ち上げた目標の1つは知識、能力、態度のいい人材を育成するために大学に通う人々の割合を増やすことである。そのため、近年、大学に進学する人が増えている。しかし、依然として設備と機器の不足について困難があることに加えて、ベトナムの教育の質はまだ労働市場のニーズを満たしていない。ベトナムでは中小企業が96.7%を占めており、質の高い人材はまだ必要がない。他方、大規模な企業や外資系企業は質の高い人材が欲しいが新大卒者の能力が足りないので、大企業のニーズを満たしていない。そのため、失業率が高くなっている。したがって、ベトナムは「頭脳流出（brain drain）」の避けられない傾向に直面している。生活水準の低さと国内の労働環境の不十分な報酬により、多くの資格のある訓練された労働者が海外に行ったり、より経済的に発展した国で働いたり、留学したりしている。留学生はベトナムでの仕事に戻らない。

ジェンダーと仕事に関する課題について述べる。男女就業者数はほぼ同じである。また、ベトナムの管理職女性は他のアジア諸国と比較したときに女性の割合が際立って高いことがその大きな特徴であるが、他方、男性と比べて女性の多くは非正規労働者である。人口構成を見ると、生産年齢人口が多いため、経済発展に有利な時期と考える。しかし、先に述べたように、ベトナムは知識経済に向かっている今、すべての人材が知識を育むことが不可欠である。一方、少子高齢化が進む中、退職者の雇用、高齢者の介護、社会保障、年金などの将来の問題は、政府が対処しなければならない問題だと考える。政府だけでなく、労働年齢の人々もまた、問題を認識し、勉強、仕事、子供が生まれた後で安定させてもらうことについて自分自身のキャリア形成をどうするか設計する必要がある。

3. インタビュー調査にみる高学歴留学生のキャリア形成と困難

2章では、インタビューを通して日本における高学歴留学生が抱える困難を明らかにすることを目的とした。対象者の学校キャリア、職業キャリア、家族キャリアについて、ジェンダー、世代、家族の三つの視点で分析・考察する。そのうえで、同じ三つの視点で対象者の人々の困難について考察する。

3-1 調査方法

3-1では、インタビュー調査方法を選んだ理由を述べる。そして、インタビュー調査の

特徴、データ収集補法とデータの記録・整理補法、インタビューの内容を指摘する。

インタビュー調査を選んだ理由は二つある。一つ目は新型コロナ流行の影響を考え、オンラインを用いたインタビュー調査にしたことである。二つ目は他の調査方法と比較して、インタビュー調査のメリットは回答の正確さを確認できるからである。

対象者について全 20 名（男女半々）、20～30 代高学歴のベトナム人留学生をインタビューするよう、計画した。インタビューした対象者は全 20 名で、女性 9 名、トランスジェンダー*11 名、男性 10 名、男性の中にゲイの人 1 名がいる。対象者の学歴は、日本の大学（在学中）9 名、日本の大学院（在学中）1 名、ベトナムの大学を卒業後日本の大学院修了 3 名、日本の大学を卒業 5 名、ベトナムの大学を卒業後日本で日本語学校を卒業した 2 名であった。

データ収集方法とデータ整理について、インタビューをする前に、留学生の情報を把握するために、調査票をメールで送っておき、記入してもらった。それから、質問項目（表 1）を基にインタビューを実施した。実施時期は、2021 年 9 月から 10 月まで、20 日間である。インタビューにおける使用言語はベトナム語であった。インタビューは協力者の同意を得た上で、IC レコーダーに録音し、それを文字化し、ベトナム語を日本語に翻訳した。第三者（愛知教育大学の 3 年生）の協力を得て、原文と翻訳結果のニュアンスの異同を検討した。インタビューの内容を以下に示す。

表1 インタビュー調査項目

1) 属性

- 年齢
- 性別：女性、男性、その他
- 出身地・現在の居住地, 日本にいる年数
- 最終学歴
- 家族の状況

2) 日本に来る前の困難（ベトナムでの困難）

学歴

- あなたが日本に来るきっかけは何でしたか？
- 日本に来てどのくらいになりますか？
- 留学するために、他の国よりも日本を選んだ理由は何ですか？
- 日本に勉強に来たのは誰かの影響ですか？

学歴の困難

- 日本へ来る前の困難には何がありましたか？
- 家族との関係における困難にはどのようなものがありますか？
- 親はAさんが留学することについてどう思いますか？
- 奨学金または自己負担で留学しましたか？
- 日本語をいつ勉強しましたか？難しいですか？

3) 日本に住んでからの困難

職業キャリアと困難

- 卒業したら、どうしますか？日本で就職しますか？帰国しますか？
- 日本で働く上で困ることは何ですか？
- 卒業したら、ベトナムに帰国せずに、日本で就職するきっかけは何ですか？なぜこの道を選んだのですか？
- どうやって仕事を見つけますか？（誰が紹介しましたか？自分で、学校支援してくれた）ベトナムに比べて就職活動はどうですか？
- 日本で働く上で困ることは何ですか？

4) 家族の状況と困難

- 日本で家族を作る上で困ることは何ですか？
- 家族と仕事を両立することができますか？
- 親と配偶者は子育てを手伝ってくれますか？
- 育児休業給付金をもらえませんか？

5) あなたのキャリア人生を振り返って、同じ道に進みたい後輩にどんなアドバイスがありますか？

3-2 学校・職業・家族キャリア形成の実態

ジェンダー、世代、家族の三つの観点で学校キャリア形成の実態について分かったことは以下の通りである。

学校キャリア形成の実態について全体として学歴について女性と男性で異なる傾向がみられた。文系と理系を選ぶことについて女性として文系をたくさん勉強したケースが多く、男性は逆である。親の仕事は子供の専攻の選択に影響を与えた。Z世代（1995年から2009年生まれ）は大学院にあまり進学しない。Y世代（1980年から1994年生まれ）は進学する傾向がある。

職業キャリアについて、ジェンダーに関して非常に異なる職業の区分がある。トランスジェンダーと女性は事務・管理系に関する仕事をして、男性は機械や技術に関する仕事をする傾向がある。職業キャリアに関する高学歴女性の意欲の高さは最も顕著であり、仕事キャリア発達は、男性よりも多くの方向性を持っている。

家族キャリアについて男性と女性の家族状況を比べ、既婚と独身である事の間には大きな違いがある。女性に比べて男性は独身者が多い。高学歴の女性は卒業して1年～5年間働いた後、経済考え方的にも仕事の面でも落ち着いてから結婚している。結婚後も仕事を続ける傾向がある。Y世代とZ世代を比べて家族キャリアが違うと考える。Y世代は仕事をしながら家族を作る。家族が安定すると同時に仕事について経験を積んでいる。その時、仕事により集中することができる。Z世代は考えるのが異なり、卒業後好きなことをし、多く体験して通り自分の事を理解し、経済的に安定してから結婚する。経済的余裕があるとき、自分の時間があり、家族の世話をすることはより快適である。そして、家族の出生順位と男女も、ベトナム若者のキャリア形成決定に影響を与える。女性の場合、家族における経済的責任の役割は男性よりも少ないため、女性はもっと自由に自分のキャリア形成を選択する。

3-3 高学歴留学生の困難

自立プロセスの地域差と学校キャリアに関する困難について、離家のタイミングは年齢に関係なく、進学タイミングに関連することを論じた。日本へ来る前に離家経験がある者は自立しており、生活は順調にできるが、自立しているからこそ何か問題があったら自分で解決して他の人に頼んでいないため、ストレスを感じやすい。日本へ来る前に離家経験がない者は日本に来ると、生活はすべて自分でやらなければならない、時間、経済、人間関係、生活のバランスなどをコントロールすることが困難だった。

経済に関する学校キャリアの困難について 奨学金を得たケースの困難は勉強面でのプレッシャーがあったことを論じた。奨学金を得たケースの困難は奨学金を得た条件によるものである。奨学金を得ても一生懸命アルバイトしなければならない。奨学金を得ないケースの困難は経済的な面の問題のために、勉強と生活のバランスをとることができなかったことである。奨学金を得られない人たちは、生活全般につらい人生を過ごした。

学校の困難について大学と大学院に入る前にほとんど皆は日本の学校、専攻の情報をアプローチしづらいことを論じた。そして、自己理解できず、目標を達成するためのプランニング方法もまだわからなかった。また、経済的な面と生活は問題があるので、つらい生活を過ごした。心身の健康に悪影響があった。大学と大学院に入る後、人間関係や勉強方法に関する困難があると考えた。

職業キャリア形成の困難では、日本における高学歴留学生の場合は（資格がある事や勉強している分野などに関連する仕事できるのみ）、ビザの制限のため、ビザを取得できる仕事につながるかどうかを考えなければならないことを論じた。職業の選択肢は限られている。そのため、Z世代は困った。そして高学歴留学生が就職する前に、就職の時、会社に入る時に高学歴留学生は異文化に関する困難があった。

家族形成の困難について、日本における高学歴者は、ベトナムに居る時よりも家族キャリアについてもっと困っていることが明らかになった。女性の場合、付き合う相手と時間が困難になり、仕事が落ち着いても、家族に作る相手に会うチャンスが少ない。高学歴女性は子供との生活に備えるために常雇の一般従事者として働いていることを選んでいいた。女性が果たす役割が多ければ多いほど、生活は大変になる。日本でベトナム男性も女性も家族を作る時、核家族になるので、妻と夫と一緒に子育て、家事、稼得役割を担う。妻の呼びかけに続いて来日した男性は、キャリア形成の困難があった。

4. おわりに

1章で述べたように、ベトナムは知識ベースの経済を備えた近代化された工業国になりたい。政府はベトナムの人材の能力を高めるための教育改革と開発政策を推進している。その一つに、大学に行く学生と学生の海外留学の奨励がある。そのため、ベトナムの若者の大学への通学や留学が増加している。また、「能力に関する代替学位制度を廃止する」ように企業の募集要項が変わった。しかし、ベトナムでの農村部と都市部では教育の質が異なり、理論教育が重視されていたため、学生の実践力は高くなく、学生のスキルはまだ、企業のニーズを満たしていない。このような状況下で、Y世代の高学歴は失業率につながっている。したがって、Z世代の場合は大学だけに行き、フリーランスの仕事をする傾向がある。その結果、日本に留学するZ世代の学生も大学進学をする傾向にある。

世界との統合のプロセス、ベトナムの4.0時代への準備は、ベトナムの社会に明確な変化をもたらした。ベトナムの若者の生活は高度にデジタル化され、インターネットは地方から都市部まで全国に普及している。インターネットのおかげで、より簡単に知識にアクセスし、より多くの情報を得ることができる。その反面、インターネット上には虚偽の情報もたくさんある。また、海外留学センターは学生が留学できるための資格、経済的能力に関する偽の文書を作る詐欺会社さえある。このような状況下で、親や知人のアドバイスは信頼できるものである。進路決定における親の影響力の強さは、その理由によると考える。インタビュー調査の対象者においても、進路選択の際、自分の能力や興味などに基づ

かず、情報を探す力と決断能力が足りないので、日本に留学した時に多くの困難があった。これらの問題を解決するために、留学する人に向けてベトナムと日本の学校にキャリア教育プログラムを導入する必要があると考える。

「はじめに」で述べた、警察によるベトナム人による刑法犯の検挙人員を在留資格別に見ると、「留学」が最も多い。一週間28時間のアルバイトで学費や生活費をまかなえるという会社の宣伝がなされているが、現実には無理である。インタビュー調査結果からも、アルバイトと勉強で生活が圧迫される留學生の生活実態が明らかになった。経済的な必要を満たすために、留學生はアルバイトをし過ぎ、それが犯罪に結びつくことがあると考えられる。さらに、留學生ビザに対しては法律が緩く、ビザを取得しやすいという事実もまた、留學生の犯罪率が高いことにつながると考える。ベトナムの若者が留學生になる方法は日本語教育機関、日本の大学、大学院に入ることである。ただし、学校によって入学条件は異なり、N5（一番低いレベル）程度の日本語能力しかなくても日本語教育機関には入学でき、ビザ取得の条件の1つを満たすことができる。そのため、留學生が日本に来る目的は留学ではなく、お金を稼ぐことになる。これを防ぐために、日本政府は日本への入国に関してより厳しい政策の対象とした。それをより良く解決するために、日本語能力が高くアルバイトができるなど、留學生のビザ条件を厳しくすべきだと提案する。ビザの労働条件がもっと厳しくなった場合、留學生が勉強に集中したり、より多くの努力をしたり、留学を希望するすべての人が学校に通える権利を確保したりして、真の学問環境を取り戻すことができる。両国政府は奨学金の増額や教育機関の授業料減額を行った方がいいと考える。さらに、日本の大学は日本語センターの代わりに日本語教育プログラムを開くべきだと考える。

日本における職業キャリアの困難について述べる。ベトナムに就職活動の文化がないので留學生は就職する時の苦勞がある。この問題を改善するため、特に大学の国際学部では、外国人留學生が簡単に就職活動支援サービスや外国人向け支援制度を利用できるようにするための窓口を設けるのがいい。

高学歴のベトナムの若者の才能や能力が十分に生かされない問題について述べる。世代についてみると、Z世代はフリーランスの仕事をする傾向があるが、ビザの問題により、キャリアの選択肢が制限され、才能が拡大されていない。また、妻の呼びかけに続いて来日した男性のキャリア形成の困難にはベトナムでの経験と学位を持っていても、日本語が上手ではないため、良い仕事を見つけることができない。家族（夫）として来日した人を対象に、日本の企業はアルバイトや有給のインターンシッププログラム（基本給よりも低い）を開いて、勉強した分野に関する仕事をする機会を与えるとよい。そのことによって、日本語を学ぶ時間を持つことができ、日本の会社、日本の生活にも慣れる。その後、正社員に移動できる可能性が高いと考える。

最後に職業キャリアと家族キャリアの関連について述べる。インタビュー調査によると、高学歴女性は子供との生活に備えるために常雇の一般従事者として働くことを選んでい

女性が果たす役割が多ければ多いほど、生活は大変になる。また、子どもができれば、産休後、会社に復帰して貢献したいが、時々子どもが病気で以前のように仕事ができなくなって不安になることがある。日本の企業文化は残業に依存しており、ほとんどの日本人は男性の役割が仕事をすることであり、妻の役割は家事、子供の世話をする事と考えるので、そのことが日本におけるベトナム人の生活をより困難にしている。男性は夫と父の役割を果たす時間や機会が少なく、夫婦間でトラブルが起りやすいと考える。グローバリゼーションに溶け込むため、日本は外国人にとって働きやすい環境を作るために、トップマネジメントレベルからのトレーニング方針を持つべきだ。そして、男性は仕事をする、女性は家にいるという見方を、より広範に変えた方がいい。また子育て支援については、保護者だけでなく、周りの地域の人たちや学校が子どもの世話をする仕組みが必要だと考える。

注

*1 トランスジェンダー：このケースは体の性は女性、心の性は男性である。

参考文献・参照ウェブサイト

Bui Tri Trung, Made it in Japan, 「第 5 話 Dr Bui Tri Trung」における発言による。

(Spotify で検索) 2022 年 1 月 12 日閲覧。

<https://open.spotify.com/show/0oQBHjPN64zU8GEFkx0kek?si=5e74cc432fa24e98>

外務省ホームページ, 2022 年 6 月 6 日閲覧。

https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/data/gaiyou/odaproject/asia/vietnam/contents_01.html

GSO ホームページ, 2020 年 2 月 26 日記載, 2022 年 7 月 24 日閲覧。

<https://consosukien.vn/huong-nghiep-van-la-mot-cau-chuyen-dai.htm>

警察庁組織犯罪対策部, 2022 年 6 月 6 日閲覧。

https://www.npa.go.jp/sosikihanzai/kokusaisousa/kokusai/H27_rainichi.pdf

岡田叔子, 2019, 「ベトナムにおける留学生獲得のための広報活動」ウェブマガジン『留学交流』2019 年 6 月号 Vol. 99, 独立行政法人日本学生支援機構, 2022 年 12 月 24 日閲覧。

https://www.jasso.go.jp/ryugaku/related/kouryu/2019/_icsFiles/afieldfile/2021/02/19/201906okadayoshiko.pdf

岡山県ベトナムビジネスサポートデスクレポート, 2010, 『ベトナムの労働力の現状について』Vol. 27, 2022 年 7 月 29 日閲覧。

<https://www.pref.okayama.jp/page/detail-80170.html>

労働政策研究・研修機構（編），2016『新時代のキャリアコンサルティングーキャリア理論・カウンセリング理論の現在と未来』労働政策研究・研究機構.

徳宮俊貴，2020，「大卒技能実習生の特徴とベトナムにおけるその背景」『社会学雑誌』第38号：120-132.

上野千鶴子，2003，『なりたい自分になれる本』学陽書房.

吉田あけみ，2014，『ライフスタイルからみたキャリア・デザイン』ミネルヴァ書房.